

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4 年 2 月 24 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200635		
法人名	株式会社富山学園		
事業所名	グループホームほのぼの苑江波气象台入口		
所在地	〒730-0834 広島市中区江波二本松2丁目10番22号 (電話) 082-295-5575		
自己評価作成日	令和4年1月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200635-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3490200635-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年2月9日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ほのぼの苑江波气象台入り口は、江波山公園の麓に位置し、公園からは広島市内が一望でき利用者様の散歩のコースとして大好評の恵まれた立地条件にあります。  
建物の中心に中庭を配し、リビングには年中暖かな陽射しと優しい風が行き渡り、時には中庭で育てた野菜が食卓に上がり、家庭的な雰囲気を醸し出しています。  
苑ならではの行事にも力を入れ、時には地域の方に「フラダンス」や「大正琴」等のボランティアにおいでいただき、利用者様の生活とメリハリのある毎日となるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

現在、コロナ禍にて外出や地域交流が制限されている中、職員は検討しながら出来る事に取り組んでいる。中庭で季節野菜の収穫、水やり、草取り、長椅子で陽に当たりながら歌う事もあり、身体機能低下予防を含め、中庭のより一層の活用により、豊かな生活に繋げている。普段の体調や変化時には看護師を中心としてスムーズな医療連携を行い、適切な介護ケアに繋げている。終末期として状態変化が見られる際には、看取り体制をとる事も可能になっている。身体拘束廃止に関して、職員の気付きやケアの工夫などについて毎月のスタッフ会議の資料とする事を課題として取り組み、引き続き「その人の身になって」日々の支援に努めるよう意識付けている。

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の朝礼にて理念を復唱し、覚えて貰い、普段の仕事に反映できるようにしている。	開設時の職員により事業所理念を定め、現在も引き継がれている。リビングから見える中庭、手作りの調理など、季節と家庭的な雰囲気の中、「その人の身になる事」を大切にしながら快適な生活環境を目指している。職員は年毎に具体的な個人目標をあげ、理念の実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入っていて、慰霊祭やお祭り等に参加され、地域との交流を楽しまれるが、ここ1年感染予防のため中断しており、職員が対応している。	回覧板を通して、地域行事の縮小や中止などの情報を得ている。今年の慰霊祭には職員が参加し、毎年の祭り（EBAあそび）では、事業所ののぼりが掲げられている。現在は地域との交流が困難となっているが、日常の散歩時には、これまで通り地域住民と挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在行えていないが、必要時には施設見学を行い、地域の人々に気軽に来苑して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍でここ1年は運営推進会議は施設では行えず、書面を通して苑の様子を地域の方々や家族様にお示しし、工夫点などお聞かせ頂き、実践している。	運営推進会議は開催できず、家族やこれまでの構成メンバーに事業所の様子を書面で伝えている。コロナ禍以前は、毎回、地域の薬剤師・警察官などからの話や大腸の健康の話などを盛り込み、多方面からの情報交換や助言を得ていた経緯がある。	町内会長・民生委員・地域包括支援センター等に事業所の状況を書面で伝える際、事業所が取り組んでいる事などを具体的に発信するよう望む。質問・意見等を得られるよう書面記載を工夫し、双方向の情報交換や意見交換により、よりサービス向上に活かされるよう期待する。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍でここ1年は運営推進会議は施設では行えず、書面を通して苑の様子を地域包括センターにお示しし、アドバイスを頂き、支援に生かしている。	地域包括支援センターから書面にて、認知症カフェや認知症サポーター養成講座などの情報を得ている。交流室に置いているピアノの活用に関して、地域包括支援センターから助言にて、職員が伴奏するきっかけとなり事業所の普段のサービスに繋げる等、良い関係性を築いている。	

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修は適時行い、禁止行為を職員に周知している。玄関の施錠は危険回避のため行っているが、外出は職員やご家族様の付き添いにて行っている。	身体拘束廃止に向け、内外研修・身体拘束適正化委員会を継続し実施しており、センサーの適切な使用についても介護の質の向上を含め検討を行っている。日々の生活の中で、リスクは事前に対処するよう皆で検討し、行動や会話を抑圧する事無く適切な対応に努めている。	
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の研修は適時行い、禁止行為をスタッフに周知している。虐待の芽チェックリストを使用し、虐待を見逃さないよう留意している。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員研修会を行い「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度」を学ぶ機会を設け、冊子を受付に置き、いつも見えるよう心掛けている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には分かりやすく説明し、本人様家族様の不安を取り除く配慮を十分行うことを旨としている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議や面会時に当苑へのご意見や要望を真摯に受け止め、朝礼や申し送り時に職員に伝え、日常ケアのサービス向上に反映させている。	家族には、ほのぼのの通信にて利用者や事業所の様子を伝え、面会時やワクチン接種の手続きの時、家族の気持ちや散歩などに関する要望を聞いている。テレビを見て利用者から「美味しそう」の声があれば行事に取り入れ、普段のやり取りの中で把握して実施に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	スタッフ会議には社長、統括施設長が毎月出席し、職員の意見や提案を聞き、運営に役立てている。管理者は職員の意見や提案を聞いて話しやすい関係を樹立している。	管理者は、職員が意見を出し易い雰囲気配慮し、時には個人面談を行っている。スタッフ会議では社長を含めて感染対策などについて検討している。職員からの意見で、水分補給の回数を増やし、日誌に血中酸素濃度の記載をはじめ、中庭のイルミネーション継続などを取り決めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者や職員の日々の努力や行動を把握し、賞与に反映させ、職員の意識向上に寄与している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は一人ひとりの力量を把握し、スキルアップできるよう内外の研修を受講できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他の福祉施設との交流を活用し、お互いのサービスの質の向上に努めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前面談を行い、本人様の思いや情報を収集して、安心して過ごして頂ける環境を整えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様から不安なこと、要望等にはしっかり向き合い、一緒に考えて行くことで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様とご家族様のその時の思いに現行のサービスで可能か見極めて、速やかに対応するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を共に過ごし、お互いに協力し、支えあう事で、共に暮らしをしていると認識しあえる関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の苑でのご様子をお伝えし、情報を共有する事で家族様が職員と共に利用者様を支えている意識を持って頂けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍で外出や面会に制限があるが、緊急事態宣言が明けた時は直接会って頂いた。今はオミクロン株が広まった為短時間の窓越しの面会を行っている。その時々出来る事で支援させて頂いている。	感染症拡大の状況や法人からの方針に合わせ、家族・知人との面会はガラス越しや適切な距離をとって行っている。利用者から希望があれば携帯電話の操作を手伝い家族と話すこともある。少人数のドライブでは、馴染みの神社や自宅方向・桜名所を指さして話題としている。	

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	周りの方と世間話、生活動作、レクリエーションを共有し、共に楽しんだり支えあって良い関係を築けるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ移動された方に関しても、要望あれば情報提供し、フォローしている。		

### Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	遊びたい方には、別のユニットに遊びに行き、生活に広がりを持って頂いている。出来る事を出来るように維持して頂きます。個別性を大事に取り組んでいる。	利用者の思いや気持ちを受け止める事を大切にして、アセスメント後、個別のカンファレンスや朝礼時に情報を共有している。「他の人と話したい」「陽に当たりたい」などの要望に対しても一人ひとりの問題として捉え、実現にむけてチームで取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式により、個別の生活歴を把握し、馴染みの暮らしに近い様式で皆さまとの共同生活を模索している。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来る事が各々異なります。各人の希望を踏まえ、出来ることを維持し、一人が出来る、皆で出来る事を分けて皆様の満足いく生活を導いている。		

自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のケアプラン実施表を基にアセスメント、モニタリングを行い、変化を見逃さず本人、家族様、職員間で話し合い、良い介護計画を作成している。	家族からの情報や利用者の気持ちに焦点をあて関係者と話し合い後、介護計画を作成している。医療的な情報を含め、生活課題として本人が気分良く取り組めるよう具体的な介護計画を作成し、モニタリングしながら現状に即したケアに取り組んでいる。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別記録に記入し、毎日プラン実施表に職員全員がチェック、コメントを記入している。その際、必要と認められた場合はプランの見直しを行う。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護保険サービス、医療保険の利用、インフォーマルサポートを模索し、ニーズに合ったサービスを提供している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	元々苑のある地域に住んでおられた方が数名おられ、地域の友人が会いに来られる事もあります。「江波が好きだから江波にずっと住みたい」気持ちを家族様とも共有している。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との信頼関係の下、介護施設で行える医療を十分提供して頂いている。	かかりつけ医に関しては、利用者及び家族の意向を確認し、希望により提携医療機関以外のかかりつけ医を選択する事も可能であり、定期や適宜の往診が行われている。看護師が配置されており、緊急時の対応やかかりつけ医からの医療情報を介護ケアに繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	バイタルチェックでの異常、排便コントロールに関して、介護職と看護職による連携をとっている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーにより、本人様の情報を医療機関に適切に提供している。退院時においても情報を適切に受ける関係作りを行っている。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化及び終末期の在り方については、主治医、看護職、介護職、介護支援専門員、管理者でカンファレンスを行い、入居者様が最期まで安心して穏やかに過ごして頂けるように支援している。	本人家族の希望と医師の判断により、看取りを含めた終末期支援が可能である事を利用契約時に伝えている。看取り時は、家族に改めて事業所の方針を書面にて伝え、医療スタッフと連携しながらチームでケアに取り組んでいる。施設看護師が中心となり研修を行っている。	
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎月行っているスタッフ会議で看護職員より、急変時や事故発生時の対応を指導して貰っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜勤を行う職員には「防火管理者」の取得を義務付けている。毎月1回の消防訓練・避難訓練や夜勤者による夜間消防訓練を実施し、意識向上に努めている。	自然災害を想定した毎月の訓練時には、避難経路や避難場所の再確認と共に、利用者も救命胴衣を着用し参加している。水・食品・簡易ガスコンロ・2台の発電機なども備え、定期的に非常食訓練も行っている。	特に火災時、利用者が第一避難所で待機する際、見守りなど住民の協力が必要と想定される。事業所と地域との良好な関係性を活かし、運営推進会議などで議題にあげ、互いの協力関係を構築する事で、利用者の安全がより強固になるよう期待する。



自己評価	外部評価	項目(さくらユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で注意しながら利用者様のプライバシーを大切にしている。特に排泄や入浴時の介助には注意を払い対応している。	スタッフ会議では、利用者との関わりについて「その人の身になる事が大切」を確認し合っている。不適切な言葉使いや声の大きさやトーン、目線の高さ等に配慮し、利用者の誇りを損ねないよう対応に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩や入浴時は思いや希望が出やすいので傾聴して自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	動きたい人には寄り添い散歩したり、毎日の排便を気にされる方には看護師と相談し、排便コントロールや歩行練習に同行している。食器洗いなども一緒にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	洋服など職員と一緒に選び、難しい方に季節に合わせた洋服を選ばせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理や配膳など一緒に行える事は一緒にさせて頂いている。手作りの食事を美味しく召し上がるよう工夫している。	主に調理専門の職員が食材を見て献立をたて、塩分やカリウムにも配慮しながら味付けに拘った食事を提供している。利用者は職員と会話しながら野菜の下準備・テーブルの準備など手伝い、中庭で収穫した野菜を用いたり、テレビで見たイチゴケーキ作りも楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>1日の食事量と水分摂取量を記録し、体重の増減と鑑み、調整をしている。咀嚼・嚥下状態に合わせた食事形態や食事時間など工夫しながら残食がないよう務めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後の口腔ケアでは仕上げ磨きを行っている。毎週提携歯科医に往診依頼しており、歯科衛生士による口腔ケア、チェックを依頼している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中定時のトイレ誘導を行い、汚染を防ぎ、パッド使用数の減少を務める。紙パンツの必要有無を職員間で話し合い、布パンツに移行できる意識を持つ。介助の必要な方の尊厳を保ち、トイレでの排泄介助を支援している。</p>	<p>個々の排泄パターンに合わせて、時間を定め、声かけに配慮しながらトイレでの排泄を大切にしている。変化する個々の状態を職員で共有し、着用する紙パンツやパット類、下着に関して見直しを重ね、自立に向けた支援に努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>ホットミルクをおやつ時間に提供したり、看護師と相談し、下剤の検討をする。歩行練習や体操の働きかけを行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>入浴は利用者様と職員のゆったりと普段話ができる時間である。嫌がられる利用者様もおられますが、浴槽に入られたら笑顔になっている。気持ちよく入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回の入浴を基本としているが、希望があれば勤務体制をみながらその都度、入浴可能となっている。身体状況によりシャワー浴や3方向から介助出来る個浴槽・家庭的な個浴槽にて、職員と会話をしながら時には入浴剤を用いて「ゆったりと気持ち良く」入浴出来るよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	日中はリビングで過ごされますが、体調によっては、お昼寝時間を取っている。夜間も定時のトイレ誘導を行う方には同行している。起床もその方のペースに合わせている。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	お薬チェック表には内服薬の効能を記入して、職員間で共有しています。嚥下状態により、薬の形状も変更しながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	体を動かすレクリエーション、歌のレクリエーション、トランプやパズルなど、計算ドリルや書写などその人に合ったレクリエーションを働きかけている。皆で行う月行事も楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い暖かい日には苑外散歩を日課としている。お誕生日の楽しみやお花見など職員の運転でドライブを行っている。	現在は、行事としての外出や家族の協力を得た墓参りなどは困難になっているが、少人数でドライブや陽の当たる駐車場での歩行、中庭の草取り、水やり等により、気分転換や外気に触れる機会を増やすよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金に関しては、現在事務所で預かり、必要時に職員が購入の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項 目(さくらユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>希望があれば、職員が家族様に電話をして会話をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>清潔を心掛け、共用の空間で不快な音や光、臭いなどに注意しながら支援している。中庭の葉物や草木に触れて頂き、季節を感じ、居心地よく過ごして頂いている。</p>	<p>共有空間では、時には人気のある曲や職員が作成した近隣風景のCDを楽しんでいる。手作りカレンダーや中庭の様子を楽しみ、調理の匂いで会話のきっかけになっている。分かり易いトイレ表示にするなど配慮し、家庭的な環境作りに努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人になりたい時には、自由に居室で過ごされたり、利用者様同士の団欒には席を近づけたり、自由に動いて頂いている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>入居前に馴染みのある物を持参して頂いたりして「施設入居」を感じないような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れたテレビ、タンス等を持ち込み、馴染みの置物、仏壇、アルバム、写真など置き、居心地よく過ごせるよう支援している。転倒予防にも配慮し自宅でのベッドの向きを参考にして家具の配置を工夫する事もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>リビング・廊下は独歩又は歩行器使用が自由にできる十分な広さがあり、トイレにはファンレストテーブルを設置し、安全で自立した排泄ができるよう配慮している。</p>		

V アウトカム項目( さくらユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	毎朝の申し送り時、出勤職員で唱和し、常に「理念」を意識し、日々の実践を行っている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に入会し、慰霊祭やお祭り等に参加して地域との交流を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	現在、グループ全体での「施設見学会」は行えていないが、必要時には施設見学を行い、地域の人々に気軽に来苑して頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ここ1年は運営推進会議は施設では行えず、書面を通して苑の様子を地域の方々や家族様にお伝えし、工夫点をお聞かせ頂き、実践している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	コロナ禍の為ここ1年は書面を通して苑の様子を地域包括センターにお示しし、アドバイスを頂き、支援に生かしている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の研修は適時行い、禁止行為を職員に周知している。玄関の施錠は危険回避の為にやっているが、外出は職員やご家族様の付き添いにて行っている。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	「高齢者虐待防止法」を職員研修会には毎年行い、虐待の目チェックリストを使用して、自分自身の介護を振り返り、「虐待」を看過しないよう務めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度」について学ぶ機会を設け、必要時にご家族様へ提案し、制度への橋渡しができるように努めている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結時には十分な時間を取り、内容を分かりやすく説明し、不安や疑問の解消に努めている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議やスタッフ会議での意見や要望、支援方法についても話し合い、ご家族様に報告する、朝礼で職員に伝え、日常生活のケアの向上に反映させている。		



自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月行うスタッフ会議には社長や統括施設長が出席し、職員の意見や提案を聞いて運営に役立てている。管理者は職員の意見や提案を聞き、話しやすい関係作りに勤めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者や職員の日々の努力・実績を把握し、給与・賞与に反映させ、職員の意識の向上を促している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者は職員一人一人の力量を把握して、スキルアップ出来るよう内外の研修を受講できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	他のグループホーム事業者交流会とのネットワークも積極的に活用しながらお互いのサービスの質の向上に務めている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入所前面談を行い、本人様の思いや情報を収集して、安心して過ごして頂ける環境を整えるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族様からの不安なこと、要望等にはしっかり向き合い、一緒に考えていき、信頼関係を築いていく。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人様とご家族様の初期の思いに現行のサービスで支援可能か見極めて速やかに対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活を共に過ごし、お互いに協力し、支えあうことで、家族のような関係づくりに努めるが、職員は利用者様をリスペクトする認識を常に持っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日頃の苑でのご様子をお伝えし、情報を共有する事で家族様が職員と共に利用者様を支えている意識を持って頂けるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナ禍の為外出や面会に制限があるが、緊急事態宣言が開けていた時は直接面会が可能であった。今はオミクロン株が広まったため短時間の窓越し面会を行っている。その時々出来る範囲で支援させて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士世間話、生活動作、レクリエーション等を共有し、共に楽しんだり、支えあって良い人間関係を築けるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設へ入所された方にも、必要と思われる情報等提供し、本人様がどこにおられてもより良い環境で過ごされるように支援している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一つのテーブルに5名が着席されている状況ですが、仲の良い時そうでない時もあります。ご自分で場所を変えて日向ぼっこされるなど椅子も配置しています。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式により、個別の生活歴を把握し、馴染みの暮らしに近い様式で皆様との共同生活を工夫しています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	出来る事が各々異なります。各々の希望を踏まえ、出来ることを維持し、一人で出来る、皆で出来ることに分けて、皆様の満足いく生活を導いている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のケアプラン実施表を基にアセスメント、モニタリングを行い、変化を見逃さず、本人様、家族様、職員間で話し合い、必要な場合、プランの見直しを行います。		
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子を個別記録に残し、毎日プラン実施表に職員全員がチェック、コメントを記入し、必要時は職員間でプランの見直しを行う。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	介護保険サービス、医療保険の利用、インフォーマルサポートを模索し、ニーズに合ったサービスを提供している。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	苑の近くに住んでおられた利用者様に友人が会いに来られています。もみじユニットには2名おられます。家族様もその繋がりを望まれています。		
30	11	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医との信頼関係の下、介護施設で行える医療を十分提供して頂いています。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	バイタルチェックでの異常、排便コントロールに関して、介護職と看護職による連携をとっている。必要時にはかかりつけ医に報告、相談しています。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護サマリーにより、本人様の情報を医療機関に適切に提供している。退院時も情報を適切に受ける関係づくりを意識している。		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、経過記録を基に家族様、主治医、看護職、介護職、介護支援専門員、管理者でカンファレンスを行い、利用者様にとってより良い方向性を話し合っている。看取りの時期には主治医、家族様、施設側と書面を交わしている。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	毎月行っているスタッフ会議で看護職員より、急変時や事故発生時の対応を指導して貰っている。		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	夜勤を行う職員には「防災管理者」の取得を推奨している。毎月1回の消防訓練、避難訓練や夜勤者による夜間消防訓練を実施し、災害への意識向上に務めている。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	職員間で注意しながら利用者様のプライバシーを大切にしている。特に排泄や入浴時の介助には注意を払っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	散歩や入浴時は思いや希望が出やすいので傾聴して自己決定ができるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員は介護を業務として捉えるのではなく、お一人お一人の体調や希望に寄り添い、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人様のお好きな衣服を選んで頂いている。選ぶことが難しい方には以前よく選んでおられた衣服や季節に合った服を選ばせて頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	調理、配膳、洗い物など一緒に行える事は行っている。テレビや料理本で「美味しそうじゃねえ」と言葉あれば、可能な限り取り入れて、食事を楽しんで頂けるよう工夫している。		

自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量と水分量を毎日記入し、調理者、介護職、看護職で話し合い、適切な量の提供を実施している。また、腎臓疾患のある方には低たんぱく米を提供し、出来るだけ体調を万全にするよう意識している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後の口腔ケアでは、仕上げ磨きをさせて頂き、毎週提携の歯科医院の往診により、歯科衛生士による口腔ケア、チェックを受けて、日々の清潔保持の指針にしている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄チェック表を利用して、日々の排泄パターンを把握し、定時のトイレ誘導を行っており、布パンツへの移行も心がけている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>運動、腹部マッサージ、水分補給など行い、自然排泄が出来るよう努めている。食べ物も食物繊維を含んだ食品を使用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>リラックスしてゆったりとして頂ける場で楽しくお話をし、くつろいで頂けるよう努めている。</p>		

自己 評価	外部 評価	項 目( もみじユニット )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	入居前の生活リズムの情報を得 て、睡眠時間も一人一人のペース に合わせている。今後、眠りスキ ャンを導入し、個々の眠りを確 保していく。		
47		○服薬支援  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬の情報は職員間で共有してい る。副作用も情報を伝達し、ス タッフ会議でも定期的に勉強会 を行っている。本人の状態によ り粉碎したり、形状を変更して いる。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	日々の生活で役割を持って頂き 、気分転換して頂ける場を設 けて、張りのある日々を過ご して頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	天気の良い日は江波山や駐車 場等へ散歩する。職員の運転 でドライブに出かける事もあ った。必要時、病院受診には ご家族様と出かけられている。		
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。	現在、コロナ禍の為近所への買 い物も難しく、代わりに職員 が買い物をしている。		



自己評価	外部評価	項目(もみじユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>必要時には職員が電話をかけ、家族様との会話を支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>在宅と同じような空間づくりをして、安心して生活できる環境を整えている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>仲の良い利用者様同士と一緒に日向ぼっこしたり、毎日を心穏やかに過ごして頂ける雰囲気づくりを職員は行っている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>今まで生活しておられた環境に近い居室の環境を作る事で穏やかに生活されるよう心がけている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室、リビング、食堂、トイレ、浴室等動線を生かして、生活できる工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目( もみじユニット ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑江波気象台入口

作成日 令和4年4月15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	苑が発信している情報誌（ほの通）にはイベント時の様子や苑内での入居者様のご様子を主にお知らせとして発信してきた。会社全体をはじめとするコロナウィルス感染症については、各事業所で取り組んできた予防対策や当苑での感染者ゼロ対策に関する情報提供ができていなかったことへの問題、及び意見交換をする手段が示されていなかったことが現状の問題と捉え今後の課題として考えられる。	隔月で発行している苑の情報誌（ほの通）にはイベントの案内のほか、入居者様のご様子をはじめとして現在、苑で取り組んでいる内容やご家族様及び地域住民の方々、町内会長様、民生委員、地域包括支援センター等と情報交換や意見交換が出来るような対策を考える。	苑の情報誌（ほの通）に案内のほか、現在取り組んでいる活動をわかりやすく記載する。頂いた様々な意見を真摯に受け止め苑のサービスの質の向上に活かしていく。	3か月～4か月
2	35	火災時、特に夜間での避難時は職員の数が昼間の時間帯に比べ大幅に減少する事。また職員が少ないために避難誘導を始めるまでに時間を要すると考えられること。	災害時の避難に備え、より多くの職員で避難誘導を始めることが出来る。また地域住民等の力を借りて入居者様が安全な場所に避難できるよう見守りや誘導をお願いする。	時間帯を問わず毎月1回の避難訓練を継続して行う。また普段から地域の方々との交流を深めることで、災害時には協力して頂けるような関係を作っていく。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。